

急性冠症候群疑いでもトロポニン値 5ng/L 未満なら入院不要

急性冠症候群疑いは、緊急入院の理由として最も多く、医療の大きな負担となっている。そのため即時退院が適当である低リスク患者を特定する戦略が大きな便益をもたらすと考えられている。そこで本研究では、急性冠症候群疑いの患者を対象に前向きコホート研究を実施し、心筋梗塞や心臓死の陰性的中のトロポニン値について調べた。

スコットランドの4つの第2次、第3次医療提供病院を受診した急性冠症候群疑いの患者6,304例を対象に、受診時に高感度心臓トロポニンI検査で血しょう中濃度を測定した。抽出コホート4,870例のうち、心筋梗塞を発症したのは782例(16%)、心筋梗塞再発は32例(1%)、心臓死は75例(2%)であった。受診時に心筋梗塞を有していなかった患者において、トロポニン値が5ng/L未満だった患者は2,311/3,799例(61%)であり、30日時点の心筋梗塞や心臓死の陰性的中率は99.6%であった。同様に、検証コホートでトロポニン値が5ng/L未満だった患者は594/1,061例(56%)で、陰性的中率は99.4%であった。また、トロポニン値が5ng/L未満だった患者は、同値が5ng/L以上の患者と比べて1年時点の心筋梗塞および心臓死のリスクも有意に低かった(0.6%対3.3%、補正後ハザード比0.41、 $p<0.0001$)。

したがって、急性冠症候群疑いで受診しても退院可能であった、心臓イベントが低リスクの患者のうち、およそ3分の2の患者の高感度心臓トロポニンIの値が低値であったことが確認された。トロポニン値を評価するというアプローチにより入院を大幅に減らせ、患者にも医療従事者にも大きな便益をもたらすと考えられる。

出典：The Lancet. Published online Oct 7, 2015; pii: S0140-6736(15)00391-8